

第 613 回 新潟放送番組審議会 議事録

— 議題 —

「フリートーク」



平成 27 年 12 月 16 日

BSN新潟放送

第613回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 平成27年12月16日(水)午後4:00～

2. 開催場所 ホテル イタリア軒 5F

3. 委員の出席

○委員側出席者(敬称略・順不同)

委員長	松川公敏	副委員長	相羽利子
委員	佐藤元	委員	古賀豊
委員	佐藤明	委員	小島良子
委員	佐々木広介	委員	細田康

○委員側欠席者

委員	正道かほる	委員	高井盛雄
----	-------	----	------

○放送事業者側出席者

社長	竹石松次	専務	梅津雅之
営業局長	斎藤和利	編成局長	島田好久
報道制作局長	太田志信	ラジオ本部長	高坂元己

事務局

事務局長	増山由美子(広報部長)
事務局員	丹羽崇(社長室長)

4. 議題 1、報告事項 「2015～2016年 年末年始・1月の新番組・単発番組」報告
2、審議事項 「フリートーキング」
この半年間(7～12月)にBSNで放送した番組について
および放送全般について

5. 議事の概要

各局長からの年末年始・1月度番組報告に続いて、審議が行われた。

～番組審議委員の主な意見・質問～

○ 年末12月30日にテレビで放送される写真家・故天野尚さんのドキュメンタリー番組

を楽しみにしている。新潟放送はこういう番組が多い。情熱にいがた、にいがた偉人伝と続く地元紹介番組に敬意を表したい。若い方へのメッセージでもあり、一つの指針としてぜひ続けてほしい。新潟放送が果たす役割は大きい。情熱にいがたの出演者が公式の場でみせる「顔」以外に、普段どのようなことを考えているのか興味深い。また、村上おしゃぎりや佐渡トライアスロン、アースセレブレーションなど地元の祭り、イベントを取り上げた番組も良い。外の方々も興味を持っている。海外に発信する意味でも、1つの番組が発火点となる。映像の力は大きい。

- 7月から12月までの番組審議会で審議された番組を振り返ると、どれも見ごたえがあった。また、番組で取り上げられた事象がその後に大きな影響を与えたり、取り上げられた人が別の色々なシーンで注目されたりした。朱鷺の番組でかなりの数のカメラを張りつけ、取材した姿勢はBSNの良いところだと思う。また、キー局のTBSを含めてスポーツ中継にも積極的に取り組み、良い結果につながっていたと思う。TBSは朝帯に苦戦して、テコ入れを行い、前から比べると見やすくなった、力がついてきたと思う。TBSもこの一年を代表するドラマを手掛けるなど、厳しい時代があって今がある。BSNもプライドを持って、良い番組作りを続けてほしい。
- 「水曜見ナイト」「情熱にいがた」に、「にいがた偉人伝」が加わり、新潟を知る番組が揃った。歴史、人を知り、産業を知り、まちを知ることができる。ドラマも日曜夜の枠は安定している。反面、ウィークデーのドラマは数字で苦しんでいると思う。キー局は見逃し動画配信サービスを始めたが、地方局でも見られたら良いなと思う。
- 夕方の情報番組からニュースと続く時間帯をビデオに録画して見たが、非常に工夫されているのが良く分かった。ローカルニュースで始まり、以下、3部構成になっている。キャスターが話題を掘り下げたり、天気予報があつたりとコーナーが多彩。18時15分からのローカルニュースはしっかり作られていて、安心して見ていられる。ただし、コーナーが多すぎたり、パネルが派手すぎたりと、工夫しすぎて、ちょっと落ち着かない部分もある。一方、祭りなど地域の動きを報道することは素晴らしい。今後も続けてほしい。
- 毎回、下町ロケットを楽しみにしている。私も子供たちの成長とともに、生活環境も変わった。今一番興味があることは介護。水曜見ナイトで取り扱うのは難しいが、介護は今後、社会的に大きな問題になると思う。たとえば、番組内に字幕を出してもらえると高齢者がすごく見やすくなる。BSNの自社制作については、祭りやスポーツなどきちんと枠をとって番組化していて嬉しい。子供達もテレビで取り上げられると、やる気が出るし、選手の家族みんなが見ることになるので、ぜひ取り上げてほしい。また、若者をターゲットにした「ダイばん」は大事にしてほしい。情熱にいがたやにいがた偉人伝は生放送でも見ている、毎週必ず録画してでも見ている。新潟を大好きになる子供が一人でも育つように、これからも続けてほしい。

- 先日の水曜見ナイトで新潟の農家レストランをテーマにしていたが、出演者の方にお会いして、新潟の卵の魅力をうかがう機会があった。テレビの影響で、すぐに実行したくなる。一番好きな番組は情熱にいがた、にいがた偉人伝。小川未明から益田孝、そして前島密と、新潟の子供達が知っておくことは大事。新潟県人として、自分が育ったところの話題を、県外に出ても、海外に出ても、自身をもって話ができることは大切。また、長岡の白菊花火を紹介した番組が今年一番記憶に残っている。その素晴らしさをぜひ海外にも伝えてほしい。新潟には私達が考えている以上に宝があると強く感じる。

- BSNのローカル局としての存在理由を今一度考えてみたい。地方の文化、歴史、人を、そして感動と希望、元気を人々に絶え間なく届けている。ただ、ローカル局の自社制作率は高くなく、できることがだんだんと減ってきている。まずは自社制作の量を増やすことが大切。制作することで存在意義を高めることが大事。地域に密着した放送サービスがテレビ地位向上につながる。また、視聴者に見てもらうには、番組の編成時間の問題も大きい。その点、BSNはゴールデンタイムに水曜見ナイトをローカルで独自編成するなど高く評価すべきだと思う。地域密着の番組編成は可能だと思うので、これからも邁進してほしい。

～新潟放送・竹石松次代表取締役社長から～

本日は貴重なご指摘、ありがとうございました。

- 放送局はやはりコンテンツが大事。ソフトは一朝一夕に制作できないが、誇ることができるものをこれからも作っていきたい。また、制作者が取材対象にのめりこみすぎるのは良くない。一歩引いた形で取り組むことも大切。我々の特徴はラジオとテレビを放送していること。両者を融合してこれからも進めていきたい。

【文責・番組審議会事務局】
